

自己評価結果公表シート（平成30年度）

平成31年3月

江別大谷幼稚園

1. 教育目標

明るく、強く、正しい子供の育成

「自然」と「いのち」に対する敬いのこころ、感謝のこころを育む事を願い、幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索・思考する過程を大切に教育を目指す。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、少人数クラス編成を取り入れ教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教育目標の再確認。

年間計画に沿ったカリキュラムを組み、教育目標に沿った保育を実践する。

教員の役割、副園長・主任の役割を明確にし、教職員の共通理解をはかる。

教職員の園内研修の実施や園外研修への積極的参加。

預かり保育や未就園児保育など、子育て支援の充実を図る。

震災・火災・不審者などの危機から園児を守るための体制・マニュアルの点検と整備。

保護者のニーズを把握し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目及び取り組み項目

項目	取り組み内容	評価内容	評価
教育目標の再確認	建学の精神である大谷保育の理解とその精神を年間計画や各行事を通じて理解する	日々のお参りや、はなまつり、報恩講を通じて大谷保育の理解を深めるとともに、協会出版の月間冊子を全家庭に配布。	A
年間計画を立て、そのカリキュラムに沿った保育の実践	年間カリキュラム、月間カリキュラムの作成と、見直し及び検討を行う	学年ごとのカリキュラムを作成し各担任で話し合いながら実践。横の連携の強化は履かれたが、縦の連携はやや不足の感がある。	B
教職員の役割の明確化と教職員の共通理解	各々の役職と役割を明確にするとともに、全体で共有化を図り各々が責任をもってその役割を果たす。	全体の共有化の不足を感じ、打ち合わせ録などを整備して全体の共有化を促進した。次年度から各委員会を設置し役割意識をもって責任を果たしていくことを進める。	B

園内研修の実施、園外研修の参加	常に保育者としての質や技能向上のために、内部研修の充実と外部研修への積極的な参加をする（大谷研修・江私幼研修・北私幼研修・道研修など）	定期的に内部研修を実施することはできなかった。次年度は研修委員を中心に進めていく。外部研修については各自 3 回以上参加することで学ぶ機会を持つことが出来た。	B
子育て支援の充実（預かり保育、未就園児保育）	子育てに対し不安や孤立しがちな保護者や、社会参加をする保護者支援のため、また幼稚園の環境に慣れ安心して幼稚園に入園できるように、未就園児保育の充実と預かり保育の充実に努める。	週 3 回の未就園児教室を実施。年間 56 回、延べ人数 420 人の開催。 預かり保育年間 217 日の実施、延べ人数 1,800 名。 今後も充実を図るよう取り組み強化。	A
災害・不審者などの危機から園児を守る体制強化とマニュアル整備。衛生管理。	地震・火災・水害発生時におけるマニュアルの再整備。外出時の危機マニュアルの整備見直し。日々の手洗い・うがいなどの衛生管理の徹底。	マニュアル整備の実施。アルソックの不審者対応研修実施。 耐震点検チェックリスト実施。 次年度マニュアル整備委員会発足予定。外出時のマニュアル整備強化。	B
保護者のニーズを確認し、今後幼稚園運営の参考にする	園及び行事などに対する父兄アンケートの実施。27 年度からの見える化に伴い、方式を変更し 4 年目となる。	保護者からいただいた意見等については、アンケートの結果内容を開示し、園の考え方などを示しながら、改善すべきものは改善するように努めた。	B

評価基準

A = 十分達成されている B = ほぼ達成されている

C = 取り組みはしているが成果が十分ではない D = 取り組みが不十分で成果も出ていない

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理 衛生管理	市教育委員会や警察から、随時提供される不審者情報に対する対応。 施設面で耐震等の対応。 防災マニュアル、危機管理マニュアルの見直しと教職員の危機管理意識付けと保護者への発信。
特別支援教育	新しい教員の計画的な教育研修の実施。 幼児に対応した個別の指導計画の作成と充実。 市や医療・福祉の関係機関との今密な連携。 補助教員体制の充実

園に対する保護者の満足度のUP	建学の精神、私学の独自性に配慮しつつ、保護者からのアンケート継続とアンケート内容の精査及び点数化（見える化の継続） P T A 役員会や保護者の会を通じての意見収集。今後も社会から求められる幼稚園を目指す。
-----------------	--

5. 学校関係者の評価

年度末に行っている学校関係者（保護者）アンケートにおいて、前年度からの指摘事項の改善点は見られるが、園の内部及び保護者とのコミュニケーションが少し弱い部分も見受けられるので、さらなる取り組みの強化を図ってみたい。
--

6. 財務状況

公認会計士監査による監査を行い、人件費の比率は高いものの適切な費用管理の実施など、適正に運営されていると認められている。
--

【別紙保護者アンケート】

平成30年度 学校評価【保護者】アンケート（結果表）

（回収率67 %）

	内 容	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう思わない
1	子どもは、幼稚園に行くことを楽しみにしている	80%	17%	3%	
2	子どもは、挨拶が出来てきている	37%	49%	13%	1%
3	子どもは、人とかかわる力をつけてきている	62%	37%		1%
4	子どもは、整理整頓や後始末など基本的な生活習慣を身に付けている	27%	55%	17%	1%
5	教職員に子どもの事が気軽に相談できる	62%	35%	3%	
6	教職員は子どもの発達に応じた保育をしている	60%	37%	3%	
7	教職員は子どもの気持ちを理解した保育をしている	50%	50%		
8	教職員は教育方針や子どもの様子について丁寧に連絡している	56%	29%	15%	
9	懇談会、参観、面談は有効な時間になっている	74%	25%		1%
10	登降園の方法や指導は適切である	72%	27%	1%	
11	教室の環境・安全面は整えられている	75%	24%	1%	
12	園庭・遊具・施設設備は子どもに適している	69%	28%	3%	
13	安全管理（交通・不審者・災害）は適切である	73%	27%		
14	園便り、クラス便り、ホームページなどで園の情報や活動をわかりやすく知らせている	72%	27%	1%	
15	幼稚園は、保護者や子供にとって満足できている	67%	33%		